

伊勢湾貧酸素情報（第 4 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

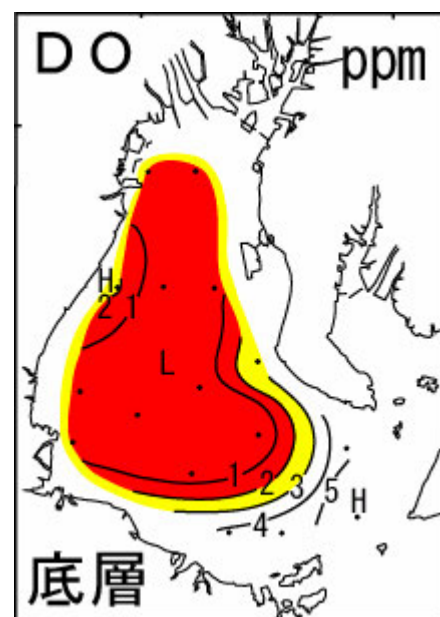
伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾奥部から中央部にかけて 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

9 月 6 日の調査結果

9 月 6 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 27.8～29.3℃，10m で 23.7～28.2℃，底層で 20.6～25.8℃の範囲にあり，表層では平年より高めからかなり高め，10m ではやや高めから高め，底層では平年並からやや高めとなっていた。塩分は表層では 19.66～30.79，10m で 28.23～32.57，底層で 31.32～33.64 の範囲にあり，表層では平年並から低め，10m と底層では平年並となっていた。DO（溶存酸素量）は表層で 5.8～10.2ppm，10m で 2.0～6.5ppm，底層で 0.01～5.6ppm の範囲にあり，表層では平年よりやや低め，10m ではやや高め，底層ではやや低めから低めであるが，広範囲で 2ppm 以下の貧酸素水塊が形成されていて，湾中央部を中心に 1ppm 以下となっていた。

表層では高水温で低塩分，底層では高塩分傾向にあるため，上下混合が起こりにくい状態であり，今後も貧酸素化が継続すると思われる。今後も貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。

湾奥部の表層ではスイトネ sp. を優占種とする珪藻の赤潮が発生していた。



貧酸素水塊の分布図